

免許状教科	中学校 1 種 (社会)		
科目名	道徳教育の理論と 方法	科目分類	教職科目
			経済学科 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
			学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Moral Education Theory and Teaching Methods	開講年次	<input type="checkbox"/> 1 年 <input checked="" type="checkbox"/> 2 年 <input type="checkbox"/> 3 年 <input type="checkbox"/> 4 年
		開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input checked="" type="checkbox"/> 集中
ふりがな	いしくろ まゆこ	修得単位	2 単位
担当者名	石黒 真愁子	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用
授業のテーマ	児童生徒に豊かな道徳性を育む道徳教育		
到達目標	<p>(1) 道徳の理論</p> <p>①道徳の本質を理解し説明することができる。</p> <p>②道徳教育の歴史や「特別の教科 道徳」の方向性、今日的課題を理解することができる。</p> <p>③道徳教育の改訂の歩みを理解し、課題意識をもつことができる。</p> <p>④子どもの心の成長と道徳性の発達について理解している。</p> <p>⑤学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標や内容を理解している。</p> <p>⑥家庭や地域社会と連携した道徳教育の必要性を把握することができる。</p> <p>(2) 道徳の指導法</p> <p>①学校における教育活動全体を通して行われる道徳教育の全体計画や道徳の時間の指導計画の必要性を理解し、作成することができる。</p> <p>②道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解し活用することができる。</p> <p>③道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。</p> <p>④学校や学年段階、実態を踏まえ、明確な授業のねらいを設定するとともに、指導過程を工夫し指導案を作成し、教材・教具を開発することができる。</p> <p>⑥模擬授業を通して授業改善の視点を身に付けている。</p> <p>⑦道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解し、評価することができる。</p>		
授業概要	<p>本講義では道徳教育の歴史や道徳性の発達論などの理論とともに、道徳教育やその要となる道徳科に対する深い理解をもとに、様々な切り口から演習を中心としたアクティブ・ラーニングを展開することを通して、具体的な指導技術や教科理解を身に付け、学生たちが教育現場で通用する実践的な授業力を養うことを目的としている。具体的には中学校学習指導要領解説の「第 I 章 総則」および「道徳編」に示された道徳教育の目標、内容、指導計画の作成、授業構想等についての基礎的な理解をもとに、教材研究を進め、指導案作成や模擬授業等を通して実践へと結び付け児童生徒の豊かな道徳性を育成する力を身に付けることを目指している。</p>		
授業計画			
第 1 回	<p>○ガイダンス○道徳教育とは何か○授業の方針、年間授業計画</p> <p>○道徳教育とは何か、その特質と重要性</p> <p>・【事前】『道徳にチャレンジ』P6 を読む。『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』第 1 章を読む。</p> <p>・【事後】道徳教育の意義についてまとめる。</p>		
第 2 回	<p>○道徳教育における主体的・対話的で深い学び</p> <p>・道徳教育のこれまでの課題を確認し、道徳科における主体的・対話的で深い学びを考える。</p> <p>・学習指導要領の変遷等</p> <p>・【事前】『道徳にチャレンジ』P8、10、12、19、21 を読む。</p> <p>・【事後】道徳教育において主体的・対話的で深い学びを通して、自身が児童生徒に育成したい資質・能力を根拠を明確に考える。</p>		
第 3 回	<p>○道徳性の発達論</p> <p>・道徳性とはなにか</p> <p>・道徳性の発達段階</p> <p>・ピアジェ、コールバーグ、デュルケイム、フロイト、デューイ等の道徳性発達論</p> <p>・【事前】『道徳にチャレンジ』P22、24 を読む。</p> <p>・【事後】コールバーグなどの道徳性の発達論の特徴をおさえる。また、ハインツのジレンマに対する自身の考え</p>		

	を根拠をもってまとめる。
第4回	○戦前・戦後の学校における道徳教育 ・道徳教育の歴史の変遷 ○諸外国の道徳 ・【事前】『道徳にチャレンジ』P14、28を読む。 ・【事後】戦前の修身教育と戦後の道徳教育との類似点や相違点をまとめる。また、昭和33年に「道徳の時間」が特設された背景を理解する。・諸外国の道徳教育と日本の道徳教育との類似点や相違点をまとめる。
第5回	○道徳教育の目標と道徳科の目標○道徳教育全体計画、年間指導計画、別葉について ○4つの視点と内容項目 ・【事前】『道徳にチャレンジ』P30、32、35、36、38、40、44、47、50、52、54を読む。 『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』第2章、第3章を読む。 ・【事後】中学校の22の内容項目から、1つ選択し、自身の考えを述べる。また、道徳教育や道徳科の目標がいかなるものか咀嚼し、それを具現化する全体計画や年間指導計画作成の際の留意点について考える。
第6回	○教材分析の仕方 ・授業構想のための教材分析の手だて ・【事前】『道徳にチャレンジ』P74、78、83、を読む。『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』P104, 105, 106, 107, 108 を読む。 ・【事後】教材分析表を活用し、実際に教材分析を行う。
第7回	○学習指導案の様式 ・学習指導案の書き方 ・【事前】『道徳にチャレンジ』P68、70、72、88、90、94、を読む。『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』第4章第2節を読む。 ・【事後】道徳科学習指導案の様式をおさえ、着眼点を理解する。
第8回	○学習指導案作成の手順と実際 ・どのように指導案を作成するかその手順 ・【事前】『道徳にチャレンジ』P96を読む。 ・【事後】道徳科学習指導案作成の手順や発問の作成についてポイントをおさえる。
第9回	○学習指導案作成の実際 ・指導案作成の演習 ・【事前】『道徳にチャレンジ』P96、107、109を読む。 ・【事後】これまでの講義から実際に道徳科学習指導案の略案を作成する。
第10回	○質の高い多様な指導方法 ・読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習・問題解決的な学習・道徳的行為に関する体験的な学習等 ・【事前】『道徳にチャレンジ』P55、60を読む。 ・【事後】質の高い3つの指導方法の特徴をおさえ、学習指導案に反映させる。
第11回	○道徳科における評価 ・評価の意義・評価の視点、観点・評価ツール・評価方法・評価の演習 ・【事前】『道徳にチャレンジ』P126、127、135、137を読む。『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』第5章を読む。 ・【事後】評価の基本姿勢をおさえ、実際に通知表の評価文を作成する。
第12回	○情報モラルと現代的な課題 ・いじめ問題、情報モラル等の現代的課題 ○道徳教育と各教科等、家庭や地域社会との連携 ・連携の意義や方法 ・【事前】『道徳にチャレンジ』P112、116、119、120、121を読む。・現代的な課題と道徳教育の内容項目との関連を考える。『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』P99, 100, 101, 102, 103 を読む。 ・【事後】全体計画や別葉の事例を参考に、道徳教育と各教科等との関連を確認する。また、家庭や地域社会との連携を図るための手だてとなる情報発信や情報収集をまとめる。
第13回	○模擬授業と相互評価
第14回	○模擬授業と相互評価
第15回	○まとめと振り返り
第16回	定期試験
授業時間外の学習	事前にテキストや学習指導要領の読み込み、指導案やレポート作成に向け、予習・復習を合わせ2時間程度を要します。
履修条件 受講のルール	道徳教育の意義を理解し、これまでの道徳教育の歴史や諸外国の道徳教育を学ぶと共に、児童生徒の道徳性の育成を目指し、道徳科の授業実践に直結した指導力を身に付けるため、教材吟味や指導案作成、模擬授業に重点を置きます。アクティブ・ラーニングへの積極的な参加や教材研究をお願いいたします。授業では、基本的なマナー（私語、脱帽、飲食、退室の際の声掛け、スマホの使用など）を守り、互いに気持ちの良い授業の運営に協力してください。シラバスは授業の進行上途中で修正される可能性があります。中座や欠席は事前に必ず声をかけてください。

テキスト	<p>○『道徳にチャレンジ』石黒真愁子著 日本文教出版 2019年</p> <p>○文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』2017年</p>
参考文献・資料	<p>○赤堀博行著『道徳授業で大切なこと』東洋館出版</p> <p>○赤堀博行著『「特別の教科道徳」で大切なこと』東洋館出版社</p>
成績評価の方法	<p>50%は筆記試験、既修内容の確認や指導案作成などをもとに評価します。主に授業実践に関わる教材吟味や指導案作成などを個人または小グループで取り組みます。また、50%はレポートや、模擬授業、授業への意欲・態度等平常点を考慮します。</p> <p>※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができない。</p>
オフィスアワー	<p>集中講義のため特になし、期間中いつでも対応します。</p>
成績評価の基準	<p>試験、レポート課題等50%、演習、授業意欲、授業態度等平常点50%で評価します。</p> <p>秀 (100～90点)、優 (89～80点)、良 (79～70点)、可 (69～60点)、不可 (59点以下)</p>
実務経験及び実務を活かした授業内容	<p>【職歴】公立小中学校の教諭、主幹教諭、教頭、校長を経て現在に至る。【社会活動】2008年～2015年、文部科学省「心のノート改善に関する協力者会議」「読み物資料作成委員」「心のノート改訂作業部会協力委員」「『私たちの道徳』の指導資料作成協力委員」「道徳教育に係る教師用指導資料作成委員」【所属学会】日本道徳教育学会 日本道徳教育方法学会 【主要論文】「個と集団の成長を促す心の教育の在り方」(査読付き 日本道徳教育学会)「道徳性を育み、道徳的実践意欲を高める道徳教育の在り方」(査読付き 日本道徳教育学会 神奈川支部)【主要著書】『新学習指導要領の展開』2016 編共著 (明治図書)『アクティブ・ラーニングを位置付けた特別の教科道徳の授業プラン』2017 編共著 (明治図書)『考え、議論する道徳科授業の新しいアプローチ 10』2017 編共著 (明治図書)『中学校2(3)年の道徳授業35時間のすべて』2019 編共著 (明治図書)『道徳にチャレンジ』2019 単著 (日本文教出版)等</p> <p>【学位】教育学修士、芸術学修士</p> <p>道徳教育の指導方法全般、道徳教育の計画、道徳科の基本方針、道徳教材の活用と教材分析、道徳科における多様な指導方法、指導過程の工夫と指導案作成、模擬授業と授業改善、道徳の評価, カリキュラム・マネジメント等特に指導方法について実務経験に基づく授業を行う。</p>
学生へのメッセージ	<p>○授業の進度により、シラバス内容が途中で変更される場合があります。</p> <p>○毎回テキスト『道徳にチャレンジ』と『中学校学習指導要領 特別の教科 道徳編』、ノートパソコンは持参してください。</p> <p>○講義中のスマホの使用、私語、飲食(水分を除く)、遅刻、いねむり等に留意し、互いに気持ちの良い学びの場をつくりましょう。</p> <p>○道徳教育は難しいというイメージがあるが、じっくりと考えることで力がついていきます。教育実習の授業実践にむけても実践的な力をつけることを目指します。</p>